

# 白神通信



【藤里駒ヶ岳】

## [contents]

- ◆ 令和4年度第1回合同パトロール(藤里駒ヶ岳・二ツ森) . . . . . P2
- ◆ 森林環境教育 合川小学校 . . . . . P3
- ◆ 藤里幼稚園 . . . . . P5
- ◆ 藤里幼稚園より . . . . . P6
- ◆ 令和4年度中・大型哺乳類調査 . . . . . P8
- ◆ 地域より「私たちの活動」NPO法人あきた白神の森倶楽部  
事務局長 武田英文 . . . . . P9
- ◆ 400年ブナの看板設置 . . . . . P10

藤里森林生態系保全センター

令和4年8月5日 No.104

# 令和4年度第1回合同パトロール

令和4年度第1回白神山地世界遺産地域合同パトロール（秋田県側）を7月9日に、巡視員の方々をはじめ白神山地に関係する機関・団体等で行いました。

今回は、二ツ森コース（17名）と藤里駒ヶ岳・田苗代コース（17名）の2コース総勢34名でパトロールを行い、入山者にマナー向上の普及啓発パンフレットを配布するとともに、登山道の安全確認や立木の伐採・損傷、植物の採取などの違法行為、病虫害等被害の有無について確認をしました。パトロールの結果、違反行為等はなく、今までの巡視活動の積みかさねにより入山者のマナーが向上していると実感しました。（山内）



二ツ森コースの開始式



入山者へ普及啓発パンフレットを配布

## 藤里駒ヶ岳・田苗代コース

標高1,158mの藤里駒ヶ岳を登る藤駒コースでは、往復約4.4kmになる登山道を登ります。

8時40分に出発し、木々に囲まれた登山道を10分ほど進むと急に視界が広がり、一面にニッコウキスゲが広がる田苗代湿原に到着しました。美しいオレンジ色の花は本格的夏の到来を感じさせます。今年は昨年より多く咲いており、ニッコウキスゲもブナの実も今年は豊作なのかもしれません。一面のニッコウキスゲ、川には大きな魚、空には無数のトンボ。この美しい風景を守りたいと改めて誓いました。

田苗代湿原を抜けると、本格的登山道が続いていました。その多くは階段状の坂道になっており、何百回もスクワットをしているようで心臓が破れるかと思いました。そして、平地になると急に体が平然となる不思議な感覚も味わい、登山の楽しさを発見しました。ハイスピードで登ったため、10時に山頂に着き、11時20分には登山道入り口に帰っており、予定では4時間の行程を3時間で終わらせました。早ければいいとは思いませんが達成感で満足している自分がいました。

ゴミのポイ捨てや、人為的な樹木の損傷も無く、パトロールも安全に終わらせる事が出来ました。引き続き高いマナー意識の保持と安全な歩道の保持を努めていきます。（谷川）



咲き乱れるニッコウキスゲ



心臓破りの坂



山頂からの景色

## ニツ森コース

ニツ森コースでは、往復約2.1kmを予定通りの3時間ほどで終わらせました。

藤駒コースとは違い、一部でササや草本が人の背丈よりも高く生長し、歩道に覆い被さって通行の妨げとなっているため、太枝切りバサミによる除去作業を行いながら進みました。参加者を先発隊、右側隊、左側隊、手直し隊の4班に分け各隊しのぎを削っての除去作業です。

10時に開始し、暑い中、中腰で汗が目に入りながらも除去作業や倒木、落枝を処理し、山頂到着は12時でした。山頂から登ってきた道を見下ろすと達成感に満ち、疲れが吹き飛びました。

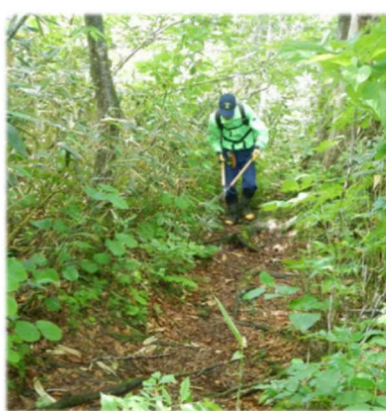
整備された帰り道を1時間で闊歩し、合同パトロールを終えました。ニツ森コースもゴミのポイ捨てや樹木の損傷が無く、登山者の高いマナー意識に感謝します。

また、当センターのホームページに合同パトロールを紹介するページを作成しました。是非ご覧ください。(入山)

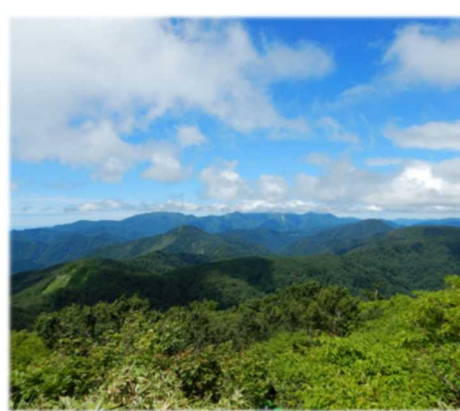
(<https://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/syo/huzisato/zyunsi/220722.htm>)



人の背丈ほどの草



歩道の整備



ニツ森山頂からの景色

## ～森林環境教育～

### 合川小学校

毎日のように変わる天気予報、昨年は雨や日程調整により中止となった合川小学校の森林環境教育が7月14日に好天のもと藤里森林生態系保全センター研修棟で事前学習、岳岱自然観察教育林では散策しながらの森林環境教育を開催しました。

事前学習は、2班に分けて行い、展示室では昔の林業写真や道具類を見たり触れたり、白神山地周辺で生育している植物や動物コーナーでは「知っている、見たことがある。」、「合川にはいない。」といった声があがり、スキャントークを使った鳥の鳴き声コーナーでは、無邪気に鳴き声に喜んでいました。特に立体鏡体験では、苦戦する生徒もいまし



展示室 昔の林業写真

たが、先生や父兄も一緒になって初めての立体視に驚きの声が聞かれました。

実習室では、白神山地や岳岱自然観察教育林の基礎知識や森の役割についての勉強会です。

児童たちは説明を真剣に聞き入り、質問コーナーでは、「ブナは何本生えているの？」、「何種類の動物が生息しているの？」、と次々に元気よく手が上がりこちらが圧倒されるほどでした。

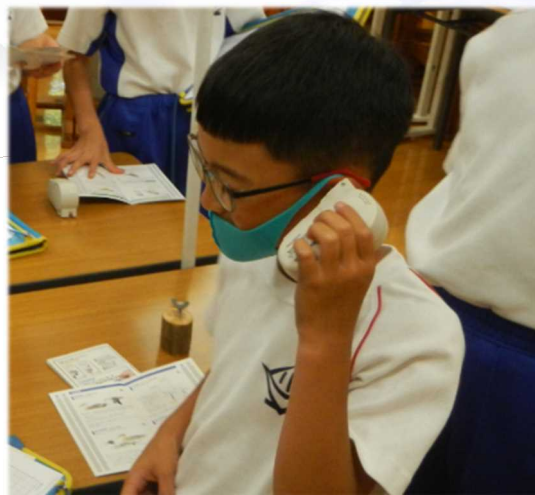
岳岱自然観察教育林での散策は、米代西部森林管理署から新人ガイド3名の協力をいただき、当センター3名のガイドとあわせ6班集体とし、少人数編成での森林環境教育を実施してみました。1班を5～6名編成にすることで、児童ひとりひとりに寄り添った丁寧な森林環境教育とすることが出来ました。

多人数による班編成と少人数による班編成、どちらも利点がありますが、改善すべき点もあり今後においても試行錯誤を繰り返しながら、よりよい森林環境教育の支援に努めていきたいと考えています。

散策中は、事前学習が功を奏したのか、「これがブナなの？」、「ブナの樹皮はすべすべしている」、「ブナの稚樹はどれなの？」と、ここでも興味を持って多くの質問をしてくれました。

また、小さなキノコを見つけたり、ブナの実を拾ったり、モリアオガエルの卵塊を見つけては大きな声をあげ、湧き水を飲んで笑顔になっていました。

今日の森林環境教育で児童たちが森林の重要性や白神山地の大切さを少しでも感じとることができたのならうれしく思います。来年もお待ちしています。



スキャンターク



実習室 勉強会



湧き水「普段飲んでいる水より美味しい！」



カエルの卵発見！

## 藤里幼稚園

毎年恒例の藤里幼稚園「岳岱たんけん」は、6月7日、8日の2日間にわたって開催されました。

1日目は探検のための事前学習です。展示室で白神山周辺に生育している植物や動物を写真で紹介し、園児たちは見たことのない生き物に目を輝かせ、写真に見入っていました。

また、実習室では木育として、木の枝を使って通称「もっくん」の製作です。園児たちは鼻や口の向き、目の位置を思い思いに工夫をしながら夢中になって接着していました。

頭の固い先生（センター職員）は、接着剤で目を付ける、といった規定概念を変えられず、接着剤を用意していましたが、現代を生きる子どもたちは、目の裏に貼られている紙を剥ぐことでシールになることを発見し、先生たちは、園児に「もっくん」の作り方を教わった冷や汗の木育でした。



飛び出て見える立体鏡



もっくん作り



もっくん

2日目は岳岱自然観察教育林での「岳岱たんけん」です。「たんけんカード」を首にぶら下げ、岳岱に潜んでいる花や木の実を探しながら元気いっぱい探検を体験しました。モリアオガエルの池では、クロサンショウウオの卵とヤマアカガエルの卵の気味悪さを楽しみ、また池の中に隠れているカエルやアメンボを見つけては指を指しながら大騒ぎでした。

園児たちの飽くなき好奇心で楽しく探検を終えることができ、この体験が自然に対して、興味と愛着を持つきっかけになればと思います。（谷川）



岳岱たんけん



ミヤマカタバミみつけ！



倒れた400年ブナの前で！



## ぱわー



### NO. 8

藤里幼稚園 うめ組

R4年6月22日(水)

## 楽しかった、岳岱探検！！

8日(水)岳岱探検に行ってきました。岳岱に向かうバスの中、森の緑が濃く深くなっていく様子に「うわー、恐竜の世界みたい・・・」とつぶやいた子どもの声。子どもの目にはこのように映るんだなあと感じ、自分達が恐竜の世界に降り立ったような、不思議な感覚をおぼえました。

岳岱では3つのグループに分かれ、森の博士と一緒に”たんけんカード”を見ながら、グループの友達とブナの赤ちゃんやクロサンショウウオの卵、きのこ等を発見しながら楽しく探検しました。岳岱に住む動植物に関心を寄せ、改めてこの自然を大切に残していきたいものだなあと思いました。子どもたちの心の中にも、何かしらの思いが刻まれたように感じます。

ん？こっちなかな？

これは何かかな？



あー！  
みーっけ！！

ブナの実も  
見つけたよ

ゆっくりゆっくり  
歩いて行くよ

ブナの葉っぱって  
やわらかいんだね



なんだかザラザラ  
しているね



シナノキの中、  
ちょっと怖かったな・・・

ん？  
上から声がする・・・

エゾハルゼミが  
鳴っていたよ



クロサンショウウオ  
の卵がいっぱい！！



この木は、ゴツ  
ゴツしているね

森の天然水、  
冷たくておいしかったよ



# 令和4年度 中・大型哺乳類調査

藤里森林生態系保全センターでは白神山地世界遺産地域モニタリング計画に基づき、例年、白神山地世界遺産地域の秋田県側周辺にセンサーカメラを設置して中・大型哺乳類調査を行っています。

令和4年度も本調査を開始しておりカモシカやタヌキ、キツネなど様々な動物が撮影されています。最近、目撃情報が多いツキノワグマは、民有林に設置したセンサーカメラにも撮影されており民家に近い箇所でした。6月中旬に八峰町へセンサーカメラのデータ回収にでかけた際には、国道を横断しようとしているツキノワグマ（子熊？）を見かけました。

その時は周りを探しても親熊は確認出来ませんでしたでしたが、子熊の近くには親熊がいる可能性が高いため、見かけた際は決して近づかないようにしましょう。

本調査の経過などは、今年度撮影された写真と併せて、今後も白神通信でお知らせして行きます。

また、撮影された動物は当センターのホームページで解説をつけて紹介していますので、興味のある方は、是非当センターホームページをご覧ください。

(<http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/syo/huzisato/zyouhou/220624.html>)



八峰町の国道横断中の子熊？



1頭だけに見えて近くには親熊が…

## ニホンジカの生息地域調査

当センターでは、本調査で撮影されたデータを活用し、ニホンジカの生息地域調査を併せて行っています。令和3年度の調査では延べ30頭のニホンジカが撮影されました。

令和4年度については、7月末現在まだ撮影はされていませんが、昨年度から八峰町の協力のもと民有林に設置したセンサーカメラには、6月に延べ2頭のニホンジカが撮影されていました。

また、藤里町では世界遺産地域巡視員より、2件のニホンジカ目撃情報の提供がありました。1件目は「藤里町ゆとりあ」近くの田んぼに居るところを、2件目は素波里ダムにほど近い道路に佇んでいるのをそれぞれ目撃されています。

ニホンジカの生息地域調査も引続き行っていますので、白神山地で「ニホンジカを目撃した」などの情報等がありましたら、当センターへ情報提供していただきますようお願いします。

(入山)



提供：世界遺産巡視員

道路の真ん中で佇んでいるシカ



提供：世界遺産巡視員

田んぼに居るところを撮影



# 私たちの活動

NPO 法人あきた白神の森倶楽部  
事務局長 武田英文

藤里町やその周辺に住む人たちが中心となってNPO法人を立ち上げたのは、平成21年5月です。地域の宝である世界自然遺産白神山地の保全に関わる活動に取り組んでいこうという趣旨でした。

これまでの13年間の活動は次のようなものです。

## 地元高校生を対象とした植樹とブナ林の観察会

毎年6月下旬(雨天の場合は9月)にブナやスギの植樹体験をし、その後で遺産センター藤里館で白神山地についての概要説明を受けてから岳岱自然観察教育林での観察会となります。

毎年、藤里森林生態系保全センターの皆さんには植樹指導や岳岱でのガイドとしてご協力を頂いて大変助かっています。



提供: 武田英文

植栽を終えてほっとした面々

## 森林山村多面的機能発揮対策活動

森林の持っている多面的機能を持続的に維持していくためには、適切な森林整備や森林資源の利用が不可欠ですが、林業の不振や山村の過疎化、高齢化でそれらが行われていない森林が多く見られます。そのため、地域住民と協力して里山林の森林整備に取り組んでいます。

## SDGsへの取組み

気候変動、自然災害といった課題が経済や社会問題に大きく影響している中で、国連が提唱するSDGsへの関心が高まっています。そこで「森ってどうして大事ななの?」(写真で知ろう!SDGs)と題した冊子を作成し、米代川流域がSDGsの理想的モデルである事を多くの写真を用いて解説し、その冊子を活用して普及啓発を図っています。

## 中国甘肅省での植樹

秋田県と友好提携を結んでいる甘肅省で2010年から蘭州市や天水市で植林や公園への桜の植樹などを行ってきましたが、コロナ禍もあって今は中断しています。

## 白神山地周辺にトレッキングコースを

日本で最初に世界自然遺産となった当初は、秋田県側への入込数も多かったが、その後は年々減少傾向にあります。知床半島や小笠原諸島そして奄美大島などが世界自然遺産として認定されたことありますが、外から人々を受入れる姿勢が整っていないことが大きな理由として挙げられます。もっとトレッキングコースを増やす事で地元経済への波及効果が期待できると思います。



提供: 武田英文

中国の黄土高原(甘肅省)に植栽

## 「森と雪の図書室」の一般開放

Café岳の2階には、植物、森林、林業そして雪や寒さに因んだ図書が約三千冊あり誰でも自由に閲覧出来ます。

## その他

講演会や木工教室、白神山地の紹介など他団体等とも協力し取り組んでいます。

# 400年フナ倒伏箇所へ看板設置

## ～岳岱自然観察教育林～

白神山地（秋田県側）のシンボリックな存在であった通称「400年ブナ」が倒伏し、東北森林管理局と藤里町が現地調査を行い、その後、関係者等の意見も聴取し「400年ブナ」は現地にそのまま保存することとし、今後は、藤里町及び東北森林管理局において、現地を保全し、標識等の整備を行うことになりました。

岳岱自然観察教育林には、毎年3,000人前後の人が訪れますが、今年は400年ブナの倒伏がマスコミ等で報道されたこともあってか来訪者が多く、当センターでは正式な看板が設置されるまでの間、訪れた方々のためにも応急的な解説看板が必要と考え、センター職員お手製の看板を設置しました。（正式な看板が設置されれば撤収する予定です。）

看板の設置は、7月9日に実施した合同パトロール後のお疲れのなか東北森林管理局、米代西部森林管理署職員、巡視員の方々の協力をいただき設置しました。

400年ブナについてはホームページでも紹介しています。是非ご覧ください。

(<http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/syo/huzisato/220706.html>) (山内)



解説看板(仮)設置の作業の様子



解説看板(仮)設置

今年の7月は、梅雨の雨に悩むといったことはありませんでしたが、連日の猛暑に加え急激に拡大した新型コロナウイルス感染症の報道に一喜なしの一憂の毎日でした。今は、いつ、どこで、誰が感染してもおかしくない、といった状況かと思えます。藤里森林生態系保全センターでは、急激な感染拡大前に森林環境教育や白神山地合同パトロールを予定通り行うことが出来ました。日頃の行いだと思えます。

それにしても、コロナに慣れてしまったのか、毎日の報道に驚くこともなく、これからは、「お祭り、音楽やスポーツイベント、帰省等々……」が予定されています。Withコロナ、社会経済活動との両立……「神様は乗り越えられない試練は与えない。」と言いますが、出来れば早く乗り越えたい試練です。

ところで、森林環境教育に参加した園児や児童の笑顔や歓声が心に染みるのはコロナ渦のせいなのか、年齢のせいなのか、いやいや持って生まれた自分の性なのでしょうか？新しい生活様式のなか、以前の日常のように子ども達も大人も楽しく過ごせる日が1日でも早く訪れますように……合掌

### 編集後記



(発行)林野庁 東北森林管理局 藤里森林生態系保全センター

TEL:0185-79-1003 FAX:0185-79-1005

<http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/syo/huzisato/>

